

【基本施策の目的】

各種の公共交通機関が有機的に連携するとともに、より多くの市民が自ら進んで利用することにより、持続可能な公共交通ネットワークを構築します。

【基本施策の今後の優先度】

中	<p>基本施策の指標値は基本的に横ばいであるものの、こまき巡回バスは、平成27年度と平成28年度にわたる再編を実施し、最大限の利便性の向上を図った。今後は、利用促進を図りつつ、おおよそ、3年サイクルで当該事業について評価・検証し、運行の維持や再編を検討していく。また、鉄道事業者が行うバリアフリー化の取組も支援していく。</p> <p>しかし、当面は現状の取り組みをしっかりと進めていく予定であり、同一分野内における他の基本施策との比較の結果、「中」と判断した。</p>
---	---

【指標の分析と今後の対応】

指標	単位	区分	基準値	H26度	H27度	H28度	方向性との整合性とその要因、実績の増減の要因、今後の見通し(予測)	今後の対応
小牧市の公共交通に満足している市民の割合	%	実績	37.2	39.6	44.4	41.9	<p>平成28年4月に北部、東部地区のこまき巡回バスの再編を行い、利便性の向上を図ったが、満足度は下がった。この再編により、主に高齢者の満足度は上がった一方、それ以外の年齢層の満足度が増加しなかったことが要因である。今後は、こまき巡回バスにバスロケーションシステムの導入の検討や運行内容を評価・検証して再編を実施していくこと、小牧原駅・小牧口駅においてバリアフリー化されること、小牧口駅の自転車等駐車を整備することなどにより、幅広い世代の満足度が上がることが期待できる。</p>	こまき巡回バスは、バスロケーションシステム導入の検討や運行内容を評価・検証しながら、再編を検討していく。また、鉄道事業者が、小牧原駅と小牧口駅をバリアフリー化する取り組みを支援するとともに、小牧口駅をはじめとした自転車等駐車場の環境整備を行う。
		目指す方向性	↗					
公共交通機関の1日平均利用者数	人	実績	37,078	38,654	40,298	41,311	<p>名鉄小牧線の沿線沿いの区画整理事業により居住者が増えていることにより、鉄道の利用者が増加している。また、こまき巡回バスについては、平成27年度より2ヶ年かけて再編を実施し、利便性の向上を図ったことから、利用者は増加したと想定される。今後も、同様の要因により増加が見込まれる。</p>	現在の公共交通網を維持・存続していくために、一人でも多くの方に利用していただくよう、いままで以上に利用促進を図る。
		目指す方向性	↗					

展開方向	指標	単位	区分	基準値	H26度	H27度	H28度	方向性との整合性とその要因、実績の増減の要因、今後の見直し(予測)	事務事業等の見直し内容
1 より効果的・効率的な公共交通ネットワークを形成します	公共交通の利用者満足度	%	実績	43.3	42.4	52.8	46.7	平成28年4月に北部、東部地区のこまき巡回バスの再編を行い、利便性の向上を図ったが、満足度は下がった。この再編により、主に高齢者の満足度は上がった一方、それ以外の年齢層の満足度が増加しなかったことが要因である。今後は、こまき巡回バスにバスロケーションシステムの導入の検討や運行内容を評価・検証して再編を実施していくこと、小牧原駅・小牧口駅においてバリアフリー化されること、小牧口駅の自転車等駐車を整備することなどにより、幅広い世代の満足度が上がることが期待できる。	こまき巡回バスは、バスロケーションシステム導入の検討や運行内容を評価・検証しながら、再編を検討していく。また、鉄道事業者が、小牧原駅と小牧口駅をバリアフリー化する取り組みを支援するとともに、小牧口駅をはじめとした自転車等駐車場の環境整備を行う。
			目指す方向性	↗					
	こまき巡回バスの1日平均利用者数	人	実績	1,085.7	1,134.4	1,355.9	1,732.6	平成28年4月の北部、東部地区における再編により、利用者は増加した。今後はコース、ダイヤが地域住民に定着することにより更なる増加が見込まれる。	現在の公共交通網を維持・存続していくために、一人でも多くの方に利用していただくよう、いままで以上に利用促進を図る。
			目指す方向性	↗					
	駐輪場の不足台数	台	実績	101	129	152	0	間内駅の利用者が年々増加していることに伴い駐輪場が不足している状況であったが、平成28年7月に駐輪場を増設し、不足台数は減少した。しかし、今後も名鉄各駅の利用者の増加に伴い不足台数の増加が予想される。	名鉄小牧線の利用者が年々増加していることから、駐輪場の増設を検討していく必要がある。また、放置自転車についても、より一層管理をしていく必要がある。
			目指す方向性	↘					
2 公共交通の利用を啓発します	通勤目的の公共交通利用率	%	実績	10.0 (21年度)	—	—	26.2	通勤手段として鉄道利用者が増加している。近年、鉄道の定期利用者が増加傾向にあることから、今後も増加が見込まれる。	市内企業へ公共交通マップを配布するなど、現在の公共交通網の現状を周知・PRを図るとともに、交通需要を把握し、こまき巡回バスの再編を検討していく。
			目指す方向性	↗					
	バス運行対策補助路線の利用者数(ピーチバス)	人	実績	383,831	379,563	377,101	361,715	桃花台地区から春日井市方面へのバス利用者数が増加していることから、ピーチバスの利用者がそちらに流れている可能性がある。	「いきいきこまき」において、ピーチバスの運行車両を利用したバス乗り方教室を開催して利用促進を図る。
			目指す方向性	↗					

経常事業	削減に関する具体的な考え方	展開方向1	現状の取組を引き続きしっかりと進めていく。
		展開方向2	自転車等駐車場管理事業 修繕料の一部を削除する。